

本コーナーでは漢方の専門医が日常診療で会う患者さんを例に、漢方処方を決定する際の留意点と、漢方薬の服用によって症状が改善していく経過を解説します。さて、今回はどのような症状にお困りの方なのでしょうか。



Iさん

ねえ、これ見て。ニキビができちゃったのよ。結構大きくて、ファンデーションじゃ隠せないの、困ったわ。

友人

あら、ほんとだ。でも、10代じゃないんだから、ニキビじゃなくて吹き出物っていうんじゃないの。

あっ、ひどい。ニキビでしょ、まだ若いんだから。

### 患者プロフィール

Iさん・25歳・女性

- ・精密機器メーカーに就職して4年目のIさん。職場にはすっかり慣れたが、新入社員に仕事を教えながら、先輩や上司からの頼まれごとに追われる毎日。
- ・疲れをためないように睡眠を十分にとり、食事にも気を付けているが、半年ほど前からニキビがよくできるようになった。顔も脂っぽく、あぶらとり紙を手離せない。
- ・クリニックでは抗生物質と塗り薬を処方された。1ヶ月ほど化粧を薄くし、肌を休めて様子をみたが好転しない。胃腸の調子も悪くなり悩んでいたところ、友人から漢方を勧められた。

# 漢方よもやま診察室

## 〔カルテ 9〕 ストレスが関与するニキビ・湿疹の治療

話し手：花輪 壽彦 北里大学東洋医学総合研究所 所長

### 診断(四診\*による診断)から処方の決定まで

\*問診、望診(見ることによる診断。舌診など)、切診(手で触れる診断。脈診、腹診など)、聞診(聴覚、臭覚による診断)の四つをいう。

花輪：ニキビでお困りそうですね。

Iさん：半年ほど前から急にニキビができるようになって……。抗生物質も飲んでるのですが、それで胃腸をこわしてしまいました。

花輪：お仕事でストレスを感じることはありませんか。

Iさん：それはもう、次から次と仕事に追われています。でも、周りもみんな忙しいので同じです。

花輪：もともと肌は弱いほうですか。

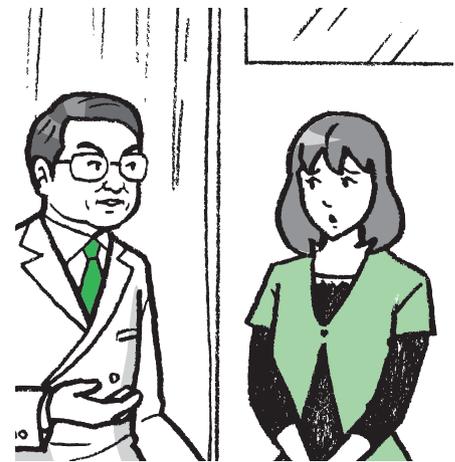
Iさん：ちょっと陽に当たると、すぐに赤くなります。

花輪：日光過敏ですね。いろいろな刺激に肌が敏感に反応しやすい体質のようです。今回のニキビは、ストレスの影響もあるかもしれません。

Iさん：ストレスでニキビですか……。

花輪：Iさんのニキビは赤くなっていますから炎症性です。漢方医学では、自律神経や血液循環を調整する働きが悪くなると、炎症や興奮が起きやすいと考えます。

身体にこもった熱を発散させ炎症を抑える生薬が入った清上防風湯という漢方薬を試してみましょう。



せいじょうぼうふうとう  
清上防風湯を処方する

皮膚は身体の内側でもストレスや精神状態、心の動きに影響を受けることが多い部分です。過度なストレスは交感神経を亢進させ、皮膚の血行が阻害されることによりニキビや皮膚症状を引き起こしやすくします。

漢方では、ニキビや湿疹など皮膚の炎症を「熱」によるものと捉えます。ストレスなどが加わると、そのストレスに対抗しようと身体の内側の様々な機能が高まり、その際に熱が産み出されます。漢方では五臓論でいう「肝」がそのコントロールを司りますが、熱がうまく発散されなければ肝の機能が失調して、熱がふき出して「ニキビ、炎症、のぼせ、イライラ」といった症状が現れます。このように、ニキビなどの皮膚疾患には、身体の内側が大きく関わっています。

清上防風湯には、熱をさます作用があります。清上防風湯の構成生薬のうち黄連、黄芩、山梔子には激しい熱をとる働きがあり、連翹、荊芥、桔梗、薄荷には熱をとる働きのほか熱の発散作用があります。浜防風、甘草、枳実

炎症に働きます。白芷、川芎は、それぞれの生薬の働きをより促進する作用を持っています。清上防風湯の清上とは「上部」を示し、頭部や顔を清解(発散)するという意味があります。

また、清上防風湯は、炎症性のニキビだけでなく、湿疹や皮膚炎、酒さ(鼻や頬の紅斑、毛細血管拡張)などの改善にもよい効果を示す漢方なのです。



処方して1ヶ月後

**花輪:** ニキビがずいぶん目立たなくなりましたね。

**|さん:** はい。顔に脂もあまり浮かないようになり、お化粧も楽になって、なんだか体調もいいんです。

2ヶ月後

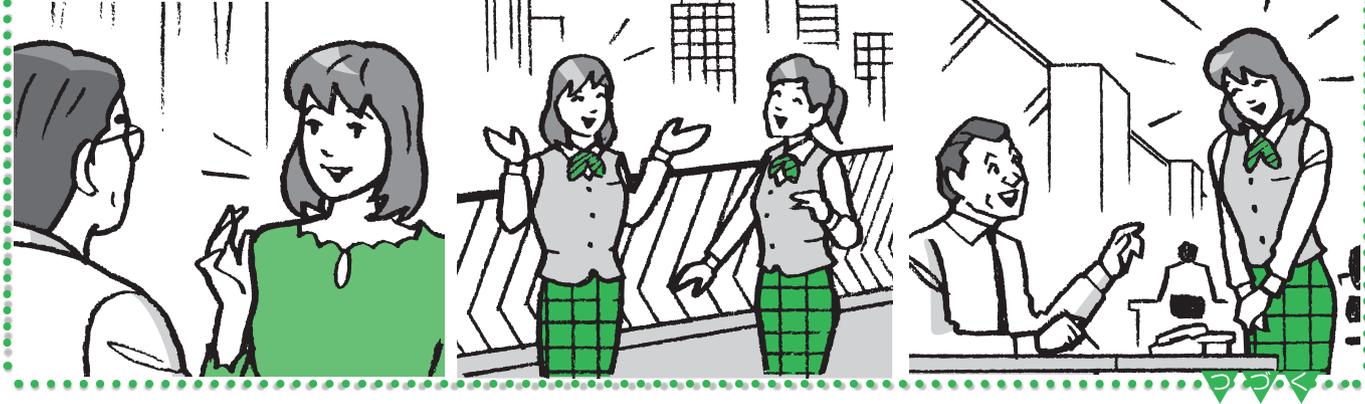
**友人:** あら、Iさんエステでも行ったの。お肌つやつやで、きれい。

**|さん:** ありがとう。でも、エステじゃないの。漢方が効いたのよ。

3ヶ月後

**上司:** Iさん、ちょっと買い物をお願いしてもいいかな。

**|さん:** (また!?) でも、イライラしちゃ、だめだめ)。は〜い、何が必要ですか。



花輪先生から店頭へのメッセージ

漢方では、ニキビの種類によって処方薬を選びます。最も多い炎症性の赤いニキビは、今回の症例と同じように清上防風湯を選択します。一方、黒っぽい色のニキビには桂枝茯苓丸、つやのない白いニキビには当帰芍薬散が適応になります。さらに膿を持ったニキビでは、胃腸障害の合併が考えられますので、私は半夏瀉心湯を選択します。

また、漢方薬が患者さんに合っているかどうか、迷った時は

「飲めましたか?」と聞いてみましょう。どんなに苦い漢方薬でも、抵抗なく服用できれば処方合っていると考えられますが、とても飲めないとおっしゃる場合は処方合っていない可能性があります。そうした場合は、別の漢方薬への変更をご考慮下さい。患者さんの体質や症状に合致した処方薬を考えて差し上げることが漢方の基本です。

処方名	構成生薬	効能
せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	<small>おうこん ききょう さんし し せんきやう びやくし</small> 黄芩、桔梗、山梔子、川芎、浜防風、白芷、 <small>れんぎょう おうれん かんぞう きじつ けいがい ほんか</small> 連翹、黄連、甘草、枳実、荊芥、薄荷	体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるものの次の諸症：にきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、あかはな(酒さ)